中國新聞
発行所
広島市上流川町二番地
中國新聞社
電話代表南(4)3251番
振替口座広島57番
編集印刷兼発行人 糸川成辰
新聞定価 一カ月（朝夕刊）330円 一部（同）13円

月印 MOON BRAND
月印ローズ綿
純白で使用量½で暖がとれる軽いわた
御家庭には…是非ローズふとんを
最寄の寝具専門店にあり
広島県特約店 岩見屋寝具店 広島市

レバノンの米軍一部撤退か
米紙報道

【ニューヨーク五日発AP＝共同】ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙は五日"信頼できる筋"の言明として、米政府高官筋はレバノンの米軍の一部を自発的に撤退させることを検討中であると次のように報道した。

米政府高官はレバノン政府から撤退の要請がある前に米軍の一部を撤退させることを考慮中である。米軍の一部撤退の動きは新大統領が選挙され、内戦が静まってくるなどレバノンの政治情勢が改善されたとの判断から生れたものである。しかし米軍全部が引揚げることにはならず一部はレバノン政府から米国に対し撤兵の要請があるまで駐留することになろう。

（注）レバノンのシャムーン大統領は四日、米軍撤退を要請するつもりはないと言明、他方後任大統領に選ばれたシェハブ将軍は同日米軍を撤退させることが第一目標だと述べている。

ヒロシマと平和
岸首相と糸川本社編集局長 対談
永遠に戦争を追放
全人類に深い感銘と反省を
政治と思想を越えて

広島に原子爆弾が投下されてからちょうど十四年目を迎えました。これは人類の歴史が新しい原子力文明の時代に入って十四年目だということにもなります。しかし原子力は不幸にも、まず爆弾の形で使用され、当時の原爆のツメ跡はまだ広島と長崎に深く残っている一方、広島から起った原水爆禁止の平和の声は、いまでは世界の声にまでひろがってきました。しかし同時にこれにともなって、いろんな問題も起きて来ているようです。きょうはこれらについて総理に聞いてみたいと思います。

（本社側のあいさつから）—写真向って㊧岸首相㊨糸川本社編集局長

平和祭の精神を徹底

—広島の平和祭は今年で十一回目になります。昭和三十年のときはちょうど第一回原水爆禁止世界大会が開かれ、平和宣言を出して世界の人々に"広島を繰返すな"と強く呼びかけました。しかしこれまでの例を振返ってみますと、とかく平和祭が広島だけのものに止まり、国全体のものとしての盛上りにはほど遠い…。まことに残念なのですが、そんな感じがします。平和宣言の精神が全世界に拡大され、原水爆戦争回避への強い力にならねばならないと思うのですが、総理の考えはどうですか。

首相 広島の平和祭をただ単に、広島だけのものに終らせてならないのはもちろんです。正義、人道という崇高な見地に立って、戦争の惨禍を地球上から永遠に追放しようというのが、広島平和祭の精神だと思います。このことは日本人の、そしてまた全世界の人々の悲願であって、広島の人が平和祭を通じて"広島を繰返すな"と叫び、日本人全体が世界に向って"惨禍を追放せよ"と強く訴える。これはわれわれ日本人が果すべき義務であると同時に、こうすることが全人類に深い感銘と反省とを与えることになると思うのです。広島平和祭の精神をもっともっと徹底させていく必要があります。

—たしかに、いま総理がいわれた全人類という高い立場からみて、八月六日のもつ意義はまことに大きく、そしてそこには元来政治的偏向などはあるべきものではないと思うのですが……。

首相 まあ、率直にいって、これまでの例をみると、こうした行事がとかく左翼的な偏向思想にリードされたり、共産圏にのみ有利なように仕組まれるというきらいがないでもなかった。そこで歴代の保守党内閣としては、どうしてもその扱い方に慎重にならざるを得なかったと思うのです。少なくとも前内閣まではね。私はそれではいかん。広島の平和祭にせよ、原水爆の禁止問題にせよ、これらはすべて思想、政治を超越した、正義、人道という高い次元に立って扱わねばならない…とこう思っています。

国連中心に実験禁止

—核実験禁止、原水爆戦争の根絶という最終目標へ向う政治的なコースが、いろいろ考えられています。第一に世界のなかに超国家的な権威を確立して、各国の気ままな核兵器いじりを押える。第二には東西両陣営間の緊張を緩和して、戦争の不安を葬り去る。第三には両陣営をバランス・オブ・パワーの関係において戦争できないようにさせる…の三つが、いま考えられる大筋と思われますが、どれがもっとも実行的であり、好ましいと考えていますか。

首相 やはり国連でこういったことを決議しそして国連が管理する形で核兵器の実験、使用を禁止する。これがもっとも現状にかなった実現可能な方法だと思います。世界連邦という考え方…その一つの現れとして世界を構成する八十余ヵ国にとって、国連が「国会的役割」を強めてきている傾向があります。この機能を大いに強め、発揮させることができれば、原水爆問題についてはもちろん、世界をおおっている危機はよほど遠のくでしょう。これに向って努力するのが、私がかねがねいう国連中心主義です。

—フランス、西独、スイスと相つぐ核武装宣言で、世界の現状は実際にはバランス・オブ・パワーの方向へ強く動いているようですが。

首相 核爆発のすさまじい力は実験ずみで、その力によって、現在バランス・オブ・パワーによる平静状態が保たれている。全自由国家の安全保障の責任を果すには、これよりほかない…とアメリカは主張しているわけで、遺憾ながらそれが今日までの実情であることは否認できません。しかしこうした平静がいつまでも続くかという保証は実のところ全くない。観測の誤りや、偶発事によって、大きな悲劇へ導かれたことは、過去の歴史に示されている。核兵器をめぐる競争も同様でないとだれが保証できましょう。しかも原子力は人類の破滅をもたらす力をもっている。この際バランス・オブ・パワーによる平和などといった、保証のない、一時的方法はやめて、国連を中心とした管理機構の確立へ進むべきです。そのための裏づけとして将来国際警察軍という強力なものをもって世界の治安にあたる。こうしてわれわれは最終戦争の脅威から遠ざかり、原子力平和利用の方向へ専念することができましょう。

原爆症の早期治療へ

—平和祭、平和運動の進め方などについての総理の意見はよくわかりましたが、ここでもうひとつ大切な問題をききたいと思います。それは原爆被爆者の問題です。この問題は現に地元の広島で起りつつあって、そして日を追って深刻化しているにもかかわらず、なかなか表面には現われてこない性質のものなのです。たとえば、原爆医療法で三十二年度に一億七千万円が予算づけられているのに、現実には六千万円しか消化されていない。その原因を探ってみると、治療を受けていたのでは生活ができないという経済的な理由、原爆症の治療を受けたとなると、就職や縁談に差支えるのではないかといった社会的な理由など、実に思いもよらないような障害があるのです。こんごもこうした問題はいっそう根強く続くと思われますし原子力の平和利用が進んだ場合にも、その影響をめぐって、同様な問題が生じてくると思うのですが、総理の考えは……。

首相 私もかねがね、放射能の影響については大いに関心をもち、研究を進めるよう努力してきましたが、いまの話をきいてなおさらの感を深くしました。被害者の方々にはまことにお気の毒に思うのですが、なんといっても根本的には頭の切替えが必要で、そしてそれには科学知識を高めていくことだと思います。昔は結核は不治の病といわれ、疫病神視して恐れられていたものだが、今日では医学の進歩でそんなことはなくなった。原爆症の場合もこれと同じようなことが言えるのではないでしょうか。原爆症でも早期治療をすれば必ず治るんだということになれば、なにもムヤミに恐れる必要はなくなる。それにはやはり、放射能の及ぼすさまざまの影響を科学的にはっきりつかみ、その予防策、治療措置などを進歩させていくことが必要だと思います。また現に原爆症の治療を受けられない人々がたくさんいるという問題ですが、生活上の理由から受けられない人々には社会保障の立場からの救済策とあわせて手をうっていかねばなるまいと思います結婚や就職に差支えるから治療をうけたくない……こういう人々のいたましい気持は十分わかりますが、余り悲観的になりすぎてもいけないと思います。

恐れるより科学的に

—そういう趣旨のことは十分わかっていながら、なかなかそうは踏切れないところに、日本の社会の特徴を感ずるのですが……。

首相 そういうことですね。いま被害者の自覚ということを言いましたが、これは社会の人々全部にいいたいことなのです。原爆症をムヤミに恐れて、被害者を白眼視する。これなどは厳にいましむべきことで、個人も社会も、もっと科学的なモノの見方をするようにせねばいけないと思います。

—とにかく放射能の被害は目に見えないし、伝染性もない。被害者の実態を正確につかむことは困難なのです。だから現在わかっている七万六千人という被爆者手帳交付者のほかに、数多くの被害者が社会の下積みになっているということを忘れてはならないのです。

首相 その通りです。原爆の放射能を受けていても、自覚症状の出ない人は多いでしょうから……。そして十年以上も経った今日、なにかの調子にフッと障害が出てきて命を落すということがある。やはり影響を受けた人は自覚症状がなくても、進んで専門医に診てもらうようにしてほしい。

—それから、さっき総理がいわれた医学の発達によって一日も早く原爆症に対する無用の恐怖心を取除くということ、まったくその通りなのですが、その意味からも原爆第一号の被害を受けた広島に原子医学の世界的なセンターをおくことはきわめて有意義だと思うのですが……。

首相 （答えの言葉はなかったが、大きくうなづく）

—どうも、いろいろありがとうございました。

水田答申の大筋了承
経済閣僚懇談会
メコン川開発を実現

政府は五日午後二時すぎから首相官邸で経済閣僚懇談会を開いた。佐藤大蔵、藤山外務、高碕通産、三木企画、三浦農林、池田国務の各相、赤城官房長官、松野総務長官のほか、自民党から川島幹事長、福田政調会長が出席、フィリピン、ベトナムなどに対する経済協力の問題、五日結論をえた自民党水田委員会（財政経済対策特別委員会）の答申について協議した。その結果

①フィリピンのマリキナ・ダム建設については経済協力として総額約五千万ドルを供与する。

②ベトナムのメコン川開発には外務省が中心となって海外との折衝に当り実現を期する。

③水田委員会の答申は大筋は了承するが、具体策は政府・与党で協力して検討する。

などの諸点で意見の一致をみた。同懇談会の問題点は次の通り。

一、マリキナ・ダム建設などに対する借款＝経済協力として総額約五千万ドルを供与し、四年間で工事を完成させる。借款の条件はフィリピン側は将来の賠償を引当てに、輸銀からの借款を希望し、日本側はダムなどを担保にしたい意向でいる。この点については法律上の問題があるので、さらに関係各省間で具体的方法を検討する。フィリピンとの経済協力に関連して藤山外相からビルマの借款申入れに対しても交渉に応ずる必要がある旨の発言があり、これを了承した。

一、メコン川開発の調査＝エカフェ（アジア極東経済委員会）の技術援助の関係があるので、外務省が中心となって海外との折衝に当る。実際の調査は海外電力事情調査会（通産省の外郭団体）が当り、このため本年度予算から二千万円を支出する。

一、水田委員会の答申＝福田政調会長の説明に対し種々の角度から質問や意見が述べられた。輸出振興の見込み、公定歩合の引下げ、十五ヵ月予算の考え方などが主として問題となったが、答申の大筋は了承された。しかし具体策については同日の討議ではなお政府・与党間、各閣僚間に意見の食い違いがあり、今後政府・与党間で協力して検討することになった。

社説
原爆記念日に寄せて

きょうは十三回目の「原爆記念日」にあたる。十年一昔ということがあるが、この日だけは、何年たっても、ついきのうの出来事のような痛ましい回想のよみがえる日である。それは、原子戦争の危機がいぜんとして消えていないという国際政治の背景において、またどの国のどの国民も、心の底から原水爆の禁止を熱願しているという社会的背景において、決して忘れることのできない日だからである。"危機の意識"の弱いところに、平和を祈念する心情のつよかろうはずがない。一部の心なき批評家が、時としてなげやりで無責任な言葉を弄することもあるが、ここまで高まってきた世界の良心運動は、何ものもこれを阻止することはできないであろう。

重要なことは、もはや観念的な形容や詠嘆をくりかえす段階ではなくして、かえって原水爆による人体被害のくわしい実態が求められ、いわゆる放射能影響調査の科学的データが要望されている局面だということだ。後者については、国連の科学委員会の報告や、日本科学者による"金沢報告"が発表せられ、放射能が遺伝の面で長期にわたる悪影響のあることが確認されたのである。前者については、占領段階という特殊な環境に長い間さまたげられていたことや、原爆症医学の展開が十分でなかったこと、さらにまた、国の原爆医療法制定がおくれたのみならず、原爆症患者への生活保護の裏づけを欠いていたこと等のいろんな事情からして、その実態掌握は不十分のままである。この面の実態調査に、積極的なメスを入れることが要望されている現状だ。

たしかに根本的な問題としては、もっと正確で網羅的な原爆被災者の調査表をつくることが望ましい。放射能の後遺症のために死んだ人でも、誤診によって結核とか肝臓病やガンの病名で調査もれになっているものは、少なくないであろう。長期の調査事業として、精力的な総合調査がつづけられるべきであり、国や地方自治体もともに協力して、調査に必要な予算措置を急いでほしいと思う。

とりわけ、われわれの気持を暗くするものに、せっかく遅ればせながらも制定された「原子爆弾被害者の医療等に関する法律」（原爆医療法）の運営面で、多くの悩みと困難があらわれてきていることだ。現実に原爆医療法の恩恵にあずかっている人が、中流以上の比較的生活にゆとりのある人に多いという話は、結局被爆者の大部分である低所得階層にとっては、残念ながら生活上の理由からして、原爆医療法の適用から遠ざかることになる。この悩みを打開するためには、医療法プラス生活援護法の総合体系にこれを高めて、後顧の憂いなしに専心療養できるような仕組みが必要である。医療法に基く予算はわずかな金額である。そのわずかな金額がなお四割も残っているということは、以上のような生活的な背景と、被災者自身が正式宣告を恐れるといった心理状態もあるにちがいない。原爆症医学が今後一層進歩して、その治療に明るい見通しと確信を与えてくれることと、法運営の実質的な内容を充実することを期待するものである。きのうの本紙朝刊がくわしく紹介したように、実際の医療認定に意外に多くの手間と時間を食っている現状や、援護活動を鈍くしている繁雑な官庁組織なども、このさい徹底的に検討し、改善してもらいたいと思う。

原爆記念日を迎えて、われわれはあの日の広島の残酷な犠牲者のことを忘れることはできない。年とともに痛ましく、年とともに一層生々しくわれわれの胸によみがえってくる歴史の悲劇に対決して、われわれのなすべきことは何か。その一つは、平和をおびやかす原子戦争の危機を直視して、ねばりづよくどこまでも原水爆禁止運動をつづけることである。この道は、幸いにして世界各国の大衆の共感と、根づよい実践に結びついてきた。けれども、その悲惨な原水爆被害の実態そのものは、必ずしもまだ十分に知られているとはいえない。原水爆実験から生れる放射能の遺伝的悪影響などについても、この方面の専門科学者以外の大衆にとって、それほどわが身につまされた切実な実感になっているとはいえない。認識の不足や無知のために、正しい世論の盛り上りが遅れてはならないのである。そういう意味で、この方面の正確なデータが、広く、そしてすみやかに提供されることを希望するものである。

思い出の原爆記念日を迎えて、心の底深く弔旗をかかげ、平和への決意を新たにしたい。

首相の出席は未定
外相 首脳会談問題を語る

藤山外相は五日の閣議で岸首相の首脳会談出席の可能性などについて報告したが、閣議後の記者会見で中東問題に関する首脳会談の開催の見通しを次のように語った。

一、フルシチョフ回答が出なければ会談の時期、形式の見通しもはっきりしない。従って外務省はわが方から首相なり外相なりが安保理に出席するかどうかはフ回答を待って検討する。

一、しかし、一般情勢としては安保理のワク内で会談が開かれ、場所はニューヨークでなく欧州となる可能性が強いようだ。

一、国連憲章二十八条に基き、安保理事会が開かれた場合は、首相はともかく私（外相）は出席しなければならないだろう。しかしこれも今後の情勢次第だ。

（注）＝国連憲章第二十八条二項＝安保理定期会議を開く。この会議においては各理事国は、希望すれば閣員または特に指名する他の代表者によって代表されることができる。

実質的な内需喚起
思い切った水田答申

解説

▽…自民党臨時財政経済対策特別委員会（委員長水田三喜男氏）は五日一応の結論を出した。岸首相も六日の記者会見でこれをもとにして経済政策について所信を明らかにする。福田政調会長は経済政策をめぐる政府・与党内の論争もひとまず終止符を打ったとしているが、五日の経済閣僚懇談会では早くも佐藤蔵相らから反発も出ており、論争が再燃する恐れもありそうだ。この結論は表現は慎重ながら、内容はかなり思い切った内需喚起策ともいえるもので、積極論者の筆頭といわれる池田国務相あたりからも文句は出そうにない。

▽…つまり有効需要をふやすためには輸出増進のほかに公共投資の形で財政金融上も合せて積極的措置をとるべきだ。このためには本年度第三・四半期（十—十二月）で、公共事業を中心に既定予算総額の一割以上（約二百億円）を繰上げ実施する。その結果、年度末に予算が不足したり、年度内に予算を完全に使い切ってしまうことが明らかになれば、三十四年度予算との間に切れ目がでないよう必要な予算措置をとるともいっている。臨時国会でタナ上げ資金を取りくずしても実際にカネが出ていくのは明年度に入ってからだ。それより青写真がすでにでき上っているものを繰上げて出す方が効果的だと福田政調会長らは説明しており、アトで始末もつけるというのだから、タナ上げ資金の取りくずしよりは実質的な内需喚起策といえるわけだ。

▽…さらに三十四年度は有効需要をふやすのに有効な事業費を増加する。その財源には「蓄積財源を活用するとともに、民間資金の動員活用について新構想を検討する」といってタナ上げ資金はもちろんのこと、外為会計のインベントリー（蓄積資金）の取りくずしや産投資金の活用のほか公債発行さえ示唆しているかのようにもみえるほどで、相当に意欲的である。内需増大の方法として財源的な制約と消化能力の面から一挙にふやすことはせず、十八ヵ月にわたってなしくずし的にやろうとしているのが一つの特色である。

▽…福田政調会長も「慎重な態度でブレーキをかければ、どこまで走ったかはわからない」といいながらも、積極的な色合いが強いことを認めているが、この背景には水田委員長らのかなり深刻な情勢判断があるようだ。すなわち経済計画では本年度実質三%の成長を見込んでいるが、現状はそこまでいかないどころか、このままでは下降カーブで推移することになる。従って三十四年度の経済成長も考え、有効需要の補強などで下に落ちないようささえざるをえないというのである。この意味で「景気沈滞」とか「不況」とかの言葉を避け「経済成長力の渋滞」という表現をとってはいるが、実際は相当悲観的な見通しに立っているといえる。

府県選挙は4月23日
自民党に自治庁案示す

自治庁は来年春に行われる都道府県、市町村などの地方選挙の期日を統一して行う方針でその日取りを検討していたが、結論を得たので、五日開かれた自民党の地方制度調査特別委（委員長＝郡祐一氏）と政調地方行政部会（部会長＝纐纈弥三氏）の合同会議にこれを提出した。

自治庁案は四月一日から五月三十日の間に任期の満了する都道府県、市町村の首長および議員の選挙を統一し、四月二十三日に都道府県の知事、議員、同三十日に五大市、市町村の長、議員の選挙をそれぞれ行うというものである。同日の合同会議はこの自治庁案を中心に議論したが、党の一部に異論が出てまとまらず、九日改めて検討のうえ最終結論を出すことになった。

政府・与党の間で期日が決まれば臨時国会に「地方公共団体の議会の議員および長の選挙期日等の臨時特例法案」を提出する。統一選挙は選挙管理上の便宜と選挙民の意識を高める目的から昭和二十二年いらい実施されてきた。前回の三十年選挙は四月二十三日に都道府県、五大市の長および議員、同三十日に市町村の長および議員の選挙を行なった。

自治庁案によると前回都道府県選挙と同時に実施した五大市選挙を市町村と同じ日に行うことになっている。これは五大市が同一投票日に知事、都道府県議、市長、市議と四回もの投票を行うことによる混乱をさけたものである。

同日の合同会議では一部から「選挙運動期間が他の選挙と重ならぬよう、投票日を大きくズラしたらどうか」などの意見も出され、自治庁案についてなお問題が残っている。自治庁調べによると四月、五月に任期の満了するものは次の通り。

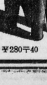
都道府県知事二十、同議員四十六、市長百六十九、市議三百二十一、特別区二十二、町村長千四百十三、町村議千七百十七。

断層

十三回目の原爆記念日である。きょう八月六日は、四十万広島市民が当時を追憶しつつ、平和を守る決意に燃える悲しくもまた尊い日なのだ。平和公園慰霊碑前で行われることしの慰霊平和記念式は全国の小・中学生の決意の結晶「原爆の子の像」にいろどられて、意義も一しお深いようだ▲六日の行事は年を重ねるにつれて次第ににぎやかさを慎み、地味だが力強く、国民の平和への熱願から盛り上る自然な行事に移行してきた。広島県下では各地で原水爆禁止大会が開かれ広島ではその代表者会議が東京で行われる第四回原水爆禁止世界大会に呼応して開催され、原爆第一弾を浴びた県民の意気を示すかのようだ▲被爆者たちの決意はまた格別である。広島原爆病院入院患者九十二名は世界大会へ一万羽の折ヅルを贈ったし、原爆禁止の歌のコーラスで清められつつ、テレビ結婚をした被爆者もいる▲放射能後遺症におびえるものも多く、多量の放射能を含む雨の多い広島地方では、日常生活にもほのかな悩みが消えうせない。被爆者医療法もでき一億七千万円の予算もあるが、使用額はわずかに三三%、どうやら医療法を保護法にかえる時機がきたようだ▲被爆死者数は十五万とも二十万ともいうが、生存被爆者はなお県下で十数万、広島市内で九万と推定され新たに氏名判明して慰霊碑に合祀されるもの百六十四柱というありさまだ▲さて平和都市広島はどうあるべきか。人口は漸増してまさに四十万を突破し、戦前の域に近づきつつある。高層建築物は軒を並べ、緑も増して都市の美観は一段と高められているが、平和とか文化とかの芳香が町にみなぎるにはかなりの時間がかかるようだ▲終戦直後には、広島を人口二十万くらいの典型的な平和文化都市に仕上げたらという声も識者の間に出ていたが、自然の勢いはこれに反して進む。原爆記念日は広島市民が「広島の前途」への構想をめぐらす日でもあるようだ。

宝定期預金（各10千円）お取扱中
C組（期間1ヶ年） 特賞 50万円
A組（期間6ヶ月） 特賞 20万円
B組（期間6ヶ月） 特賞 5万円
抽籤日 9月27日
中國銀行

カワテツ
カワテツのトタン板
川崎製鐵株式會社



東京文京音羽・振替東京3930
夏の夜にあなたを魅了する 講談社の 2大ミステリー！

増刷出来！
四万人の目撃者
有馬頼義
週刊読売に連載、百万読者をスリルと興奮の渦に巻き込んだ長篇推理小説。野球ファンをも堪能させる異色力篇【松竹映画化】
夕闇迫る後楽園球場…熱狂する四万の大観衆を前に、強打者新海清は倒れて死ぬ。巧緻を極める完全犯罪の謎は…
￥280 〒40

[illegible]版
粘土の犬
仁木悦子
ベスト・セラー「猫は知っていた」の仁木悦子が自信をもっておくる野心的第二作…江戸川乱歩氏絶讃！
謎解きは前から好きですが、今度の「粘土の犬」では、全くもう痺れる位です。特異な題材を鋭い感覚的な描写で盛り上げた名作…私は仁木さんの大ファンです。（東京・森喜子）
盲目の少年利彦のしなやかな指先が造り出す粘土の犬…犬は四年前の冬、郊外の一軒家で行われた惨劇の秘密を語る…その影の男、母を殺した犯人を…
￥280 〒40

今日の「広島平和祭」を記念して原爆被爆者に本を贈りましょう

岩波新書
南極越冬記
西堀栄三郎著
南極越冬隊長の手記 ここに初めて公開！
南極へ旅立つにあたって、わたしは親友の桑原武夫君から宣告をうけた。「帰国後に一書を公刊することはお前の義務である」と。もっともだと思う。熱心な声援を送って下さったたくさんの人たちに対して、わたしは自分の得てきた体験を報告しなければならぬだろう。（西堀栄三郎）
太陽が消えブリザードが吹きすさぶ氷雪の南極大陸に、日本人として最初の越冬を果した西堀隊長の日記。数多くの写真や挿絵を収めたこの書によって、人々は南極観測の意義と方法とを的確に知るとともに、日本における最も実践的な科学技術者と称される西堀博士の、創意にとむ知性と何ものをも恐れない勇気とを見出すであろう
特別定価 一三〇円 〒16
東京神田一ツ橋 振替東京二六二四〇 岩波書店